

平成27年度(後期) 学校評価集計結果 成果と課題 改善策・向上策

項目	具体的取組	評価の観点	回答者	目標 指数	結果	差	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価 (○は学校側、△は有識者側)
I 確かな学力	すべての教員が、最低1回は授業を公開し、楽しく分かる授業をめざす。	教材研究を行い、授業形態や教材・教具を工夫し、分かる授業の実践に努めている。(取組指標)	教師	90	100	10	全ての項目で目標指数を達成した。前期の向上策にあったICT機器の利用と個に応じた指導の成果が表れたものと思われる。児童の評価も高くなった。	教員の日々の努力により、児童や保護者の満足度が向上していることは大変喜ばしいことである。今後もスクールプランの実現に向け、さらに授業改善を図っていく。	・特色のある学校づくりとしていろいろな取り組みを行っているようだ。キャリア教育等での外部講師への謝礼はどうなっているのか。 ○ボランティアなので茶菓子程度である。 ・古典楽器体験会を4年生で実施したが、尺八の音は出たのか。 ○なかなか難しいが、少しは鳴った。 ・他にどんな体験活動をしているのか。 ○4年生が金津創作の森での製作活動、5年生がハーモニーホールでの音楽鑑賞等、6年生が能楽体験を行った。
		教材研究を行い、授業形態や教材・教具を工夫し、分かる授業を実践することにより、児童は授業がよくわかるようになっている。(成果指標)	教師	90	100	10			
		児童は、授業がよくわかるようになっている。(成果指標)	児童	90	92	2			
		子どもは、授業がよくわかるようになっている。(満足度指標)	保護者	80	85	5			
	「すすすくタイム」で読書やドリル学習を行い、読み・書き・計算の基礎的な力を養う。	「すすすくタイム」で読書やドリル学習を行い、読み・書き・計算の基礎的な力をつけさせる取組を行っている。(取組指標)	教師	95	100	5	教師・保護者の回答では、全ての項目で目標指数を大幅に上回り、すすすくタイムの時間を有効に活用できたことが実証された。一方、児童については目標指数に4ポイント及ばなかった。	すすすくタイムの取り組み方について実施内容を再確認したことが効果的であったようである。今後も児童が学力の伸びを実感できるよう、学習の目的を明示し、自主的に自主学習に取り組むよう工夫していく。	
		「すすすくタイム」で読書やドリル学習を行い、読み・書き・計算の基礎的な力がついている。(成果指標)	教師	95	100	5			
		児童は、「すすすくタイム」で読書やドリル学習を行い、読み・書き・計算の力がついていた。(成果指標)	児童	95	91	△ 4			
		子どもは、「すすすくタイム」で読書やドリル学習を行い、読み・書き・計算の力がついていた。(満足度指標)	保護者	80	88	8			
	読書環境を整えると共に、市の図書館と連携をとり、調べ学習などを推進して、読む力、考える力の向上を図る。	読書や調べ学習を推進して、児童の読む力、考える力が向上するための取り組みをしている。(取組指標)	教師	90	100	10	前期の反省から、辞書の活用を図ったところ、教師の成果指数が改善した。しかし児童の評価が相変わらず低く、読む力や考える力を高める工夫がさらに必要である。	図書室での授業がしやすい環境作りに努める。調べ学習やまとめ・発表などができるように、机の配置やホワイトボードの設置、テーマ別に本を並べるなど工夫する。 市立・県立図書館との連携を深める。 読み聞かせ・ブックトーク、本の紹介などの取り組みを充実する。	
		読書や調べ学習を推進して、児童の読む力、考える力が向上できた。(成果指標)	教師	90	90	0			
		児童は、読書や調べ学習活動を通して、読む力、考える力が向上した。(成果指標)	児童	90	55	△ 35			
		子どもは、家庭で本をよく読んだり、図書館を利用したりしている。(満足度指標)	保護者	70	70	0			
II 豊かな心	道徳教育を要として、道徳実践力を養成する。	児童の人権や生命を大切にしようとする意識が高まるように道徳等で指導を行う。(取組指標)	教師	90	100	10	全ての項目で前期より少しずつポイントが高くなり、ほとんどの項目で目標指数を達成した。人権週間のビデオ視聴や話し合い活動の効果も表れ、意欲的に取り組めたものと思われる。	資料を精選したり、話し合い活動を行ったりすることで、児童が意欲的に取り組めるように工夫している。人権や生命に関する内容についても、同様にして意欲的に取り組めるようにしていく。	・ボランティア活動としてどんなことを行っているのか。 ○清掃活動や奉仕作業、市姫荘等の施設訪問を行っている。 ○いじめ対策として、毎月アンケートを実施し、年3回の教育相談を全児童と行い、早期発見に努めている。 ・教育相談でいじめに関する話をするところがあるか。 ○低学年は心のアンケートにたくさん書かなく、高学年はあまり書かなくなる。児童の様子を観察するようにしている。
		道徳等の指導を通して、児童の人権や生命を大切にしようとする意識が高まっていると思う。(成果指標)	教師	90	95	5			
		児童は、道徳の学習に意欲的に取り組んでいる。(成果指標)	児童	90	91	1			
		子どもは、人権や生命に関する言動が、以前より成長したと感じている。(満足度指標)	保護者	80	78	△ 2			
	ボランティア活動を取り入れ、思いやりの心を育てる。	ボランティア活動を取り入れ、思いやりの心を育てる授業を展開する。(取組指標)	教師	90	84	△ 6	まだまだ目標指数に達していない項目が多いが、前期よりは確実に向上している。各学年での取り組みが結果となって表れてきている。思いやりの心を育成するため、更なる工夫が望まれる。	各学年に応じたボランティア活動を今後も取り入れ、委員会活動でも身近なボランティア活動を実施していく。道徳の授業だけでなく、日々の活動の中で思いやりの心を育てることを意識し、家庭とも協力して取り組んでいく。	
		ボランティア活動を取り入れたことで、児童に思いやりの心が育っていると感じている。(成果指標)	教師	90	95	5			
		児童は思いやりの心を持ち、みんなに対して優しく接することができたと感じている。(成果指標)	児童	90	84	△ 6			
		子どもに思いやりの心が育っていると感じている。(満足度指標)	保護者	90	84	△ 6			
	「いじめ防止基本方針」を元に、教育相談活動を重視して、いじめの防止、早期発見、早期対応に努める。	日常の対話により児童生徒の実態を把握するよう努め、きめ細かな対応を行っている。(取組指標)	教師	80	100	20	前期に比べ児童の評価が向上している。教育相談を定期的実施したり、いじめアンケートの結果を指導に活かしたりしている成果と思われる。児童と教師が話す機会の確保と工夫が望まれる。	毎月のいじめアンケートを今後も実施すると共に、担任だけでなく管理職もアンケートに目を通す流れを今後も継続し、学校全体でいじめ防止に取り組んでいく。	
		教育相談活動を通して、いじめの防止、早期発見、早期対応を行うことができた。(成果指標)	教師	90	100	10			
		児童は、先生と、学習や生活について話をする機会が増えたと感じている。(成果指標)	児童	80	70	△ 10			
		児童は、友だちもいて学校に通うのが楽しいと感じている。(成果指標)	児童	95	95	0			
子どもは、友だちもいて学校に通うのが楽しいと感じている。(満足度指標)		保護者	80	91	11				
III 健やかな体	業間運動でマラソンなどを行い、体力の向上を図る。	チャレンジマラソンやなわとび等で、児童の体力が増進するような取組を行っている。(取組指標)	教師	90	100	10	マラソン大会が終わってからも、なわとびに取り組んだ成果が表れ、ほとんどの項目で目標指数を達成した。業間運動や体育の授業での取り組みが、児童の体力向上につながっている。	春から秋にかけては、チャレンジマラソンの回数が増やしたことで体力の向上を図れたが、冬季の活動が不十分である。意欲的、継続的になわとびに取り組む習慣が身につくよう働きかける必要がある。また、児童が活動できる時間の確保も必要である。	・避難訓練や引き渡し訓練は大切な訓練である。しかし、意識の低下も見られるのでその意義を再確認し、工夫して取り組んで欲しい。
		児童は、チャレンジマラソンやなわとび等で体力が増進されている。(成果指標)	教師	90	100	10			
		児童は、チャレンジマラソンやなわとび等で、体力がついてきた。(成果指標)	児童	90	88	△ 2			
		子どもは、チャレンジマラソンやなわとびを通して体力が向上している。(満足度指標)	保護者	80	83	3			
「1・8・1運動」やノーテレビタイム、ノーゲームデー等を家庭と協力して実施し、規則正しい生活習慣の実現を目指す。	「1・8・1運動」等で、基本的な生活習慣を身につけさせる取組を行っている。(取組指標)	教師	90	100	10	児童並びに保護者の評価が低かった。学校としては前回の結果をもとに、一人一人がめあてをもって取り組むように働きかけたが、なかなか改善されない児童がいる。	めあてを立てる取り組みは止める。中学校のテスト期間と時期を合わせるなど、家庭で取り組み易いよう工夫したい。また共働きの保護者からどのようにしてできるようになるか教えてほしいという要望があるので、各家庭での工夫を広報できるようPTAと協議したい。		
	「1・8・1運動」等で、児童は、基本的な生活習慣が身についている。(成果指標)	教師	90	95	5				
	児童は、「1・8・1運動」等で、基本的な生活習慣が身についている。(成果指標)	児童	90	82	△ 8				
	子どもは、「1・8・1運動」等で、基本的な生活習慣が身についている。(満足度指標)	保護者	90	70	△ 20				
交通安全指導や防災・防犯・引き渡し訓練を通して自分の身を守る意識を高める。	交通安全指導や防災・防犯・引き渡し訓練を通して、安全に対する指導を十分行っている。(取組指標)	教師	90	100	10	継続して行っている事故予知能力に関する活動が定着してきて、全ての項目で目標指数を達成することができた。	行事のときだけでなく、朝や帰りの会などでも指導を継続していき、意識を高めたい。		
	児童は、交通安全指導や防災・防犯・引き渡し訓練を通して、児童は自分の身を守る意識が高まっている。(成果指標)	教師	90	96	6				
	児童は、交通安全指導や防災・防犯・引き渡し訓練で学んだことから、自分で安全に気をつけている。(成果指標)	児童	90	96	6				
	学校では、子どもの安全に対して十分な取り組みを行っている。(満足度指標)	保護者	80	89	9				

IV 信頼される学校	ホームページの更新を毎週1回行うとともに、「学校だより」や「学年だより」などを発行して学校の情報を発信する。	ホームページの更新をできるだけ早く行ったり、いろいろな「たより」を定期的に発行したりして、学校の情報を発信する。(取組指標)	教師	90	100	10	後期は前期以上にホームページ等による情報発信ができた。前期より取組指標が大きく向上した。	担当者が連携して内容を練り、定期的に更新しタイムリーに情報発信していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページで、給食献立の掲載が遅いようである。</li> <li>○早めにアップするように担当者に指示する。</li> <li>・インターネットの利用について、家庭でもっと話をするのが大切である。</li> <li>・ゲーム機のDSでもインターネットに繋がるので気をつけてあげなければいけない。</li> <li>・スマートフォンは、ゲームやラインを利用することはできて、大人でものめり込めることがある。</li> <li>・事件に発展することがあるので注意しないといけない。</li> </ul>
		ホームページの更新やいろいろな「たより」の発行等で、学校の教育内容を発信している。(満足度指標)	保護者	90	92	2			
	学校公開日を年数回実施し、保護者や家族の方々に児童の活動の様子を積極的に公開する。	学校公開や学校行事を通して、積極的に児童の活動の様子を公開する。(取組指標)	教師	90	100	10	学校公開日等により児童の活動の様子を積極的に公開することができた。	家庭への連絡を早くすることで、たくさんの保護者が参加してくださっている。今後も学校の様子を見ていただけるように工夫していく。	
		学校公開や学校行事を通して、学校の様子がよくわかる。(満足度指標)	保護者	90	93	3			
	ネット利用や情報モラルについて情報を発信する	ネットの利用や情報モラルについて、必要な情報を発信する。(取組指標)	教師	90	100	10	ネット情報の発信により取組指標が大きく向上した。保護者の評価もやや向上したが、目標指数には達していない。	便りによる情報発信では話し合いに結びつかない。話し合いの結果を集めたり集約したりする取り組みが必要となる。	
		ネットの利用や情報モラルについて、親子で話し合いの機会をもつ。(満足度指標)	保護者	90	60	△30			
	家庭や地域の方々と連携して、自らあいさつのできる子を育てる。	家庭や地域の方々と連携して、あいさつの指導にしっかり取り組んでいる。(取組指標)	教師	90	100	10	ほとんどの項目で目標指数を達成することができなかった。あいさつ運動や自己ふり返りカードの利用等、いろいろと工夫を凝らしていたが、状況はなかなか改善されなかった。	児童のふり返りカードによって、かえって児童の成果指数は下がってしまった。しかし、一回だけの実施の結果であることと、家庭でのあいさつも項目に入れたので保護者の評価は微増したことから、もうしばらくふり返りカードの取り組みを継続したい。	
		児童は自分から元気にあいさつをしている。(成果指標)	教師	90	46	△44			
		児童は、友達や先生、地域の人に自分から元気にあいさつをしている。(成果指標)	児童	90	76	△14			
		子どもは、地域や家庭などで自分からあいさつをしている。(満足度指標)	保護者	80	64	△16			
	保護者や地域住民と積極的に関わって行事を行う。	保護者や地域住民と積極的に関わって行事を行うようにする。(取組指標)	教師	90	100	10	PTA活動等を通して、保護者や地域住民と積極的に関わることができた。	保護者と教職員が協力してPTA活動ができている。また、校外学習等でも地域の方々からたくさんの協力をいただいている。	
		保護者や地域住民と積極的に関わることができる。(成果指標)	教師	90	100	10			
V 2学期制	事前指導を丁寧に行い、長期休業を学校の途中として取り組むための効果的な手段を講じる。	長期休業を「学期の途中のもの」とし、休業中の支援を意図的に計画的に行っている。(取組指標)	教師	80	100	20	前期もよかったが、更により結果となった。2学期制での長期休業の取り組みが定着してきた。	児童は休業中に計画的に課題に取り組んでいる。教師も個別学習を行ったりして意図的に長期休業に臨んでいる。今後も継続して取り組みたい。	
		夏休みや冬休みは、計画的に課題に取り組むことができた。(成果指標)	児童	80	89	9			
		子どもは、夏休みや冬休みの期間は計画的に課題に取り組んでいる。(満足度指標)	保護者	80	85	5			
学習や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、児童や保護者に対して丁寧な説明を行う。	児童や保護者に対して、学習や学校生活の様子を丁寧に伝え、共通理解を図っている。(取組指標)	教師	80	100	20	前期と同様に、全ての項目で目標指数を達成した。2学期制における評価や保護者会での対応が定着してきた。	補助簿や面談を通じて学校での様子が保護者に伝わっている。補助簿の見直しを確実に、マンネリ化することがないようにする。		
	児童は、先生との面談や振り返りにより、学習や生活の様子について考えることができた。(成果指標)	児童	80	90	10				
	個人懇談や通知表により、子どもの学習や生活の様子について詳しく知ることができた。(満足度指標)	保護者	80	94	14				